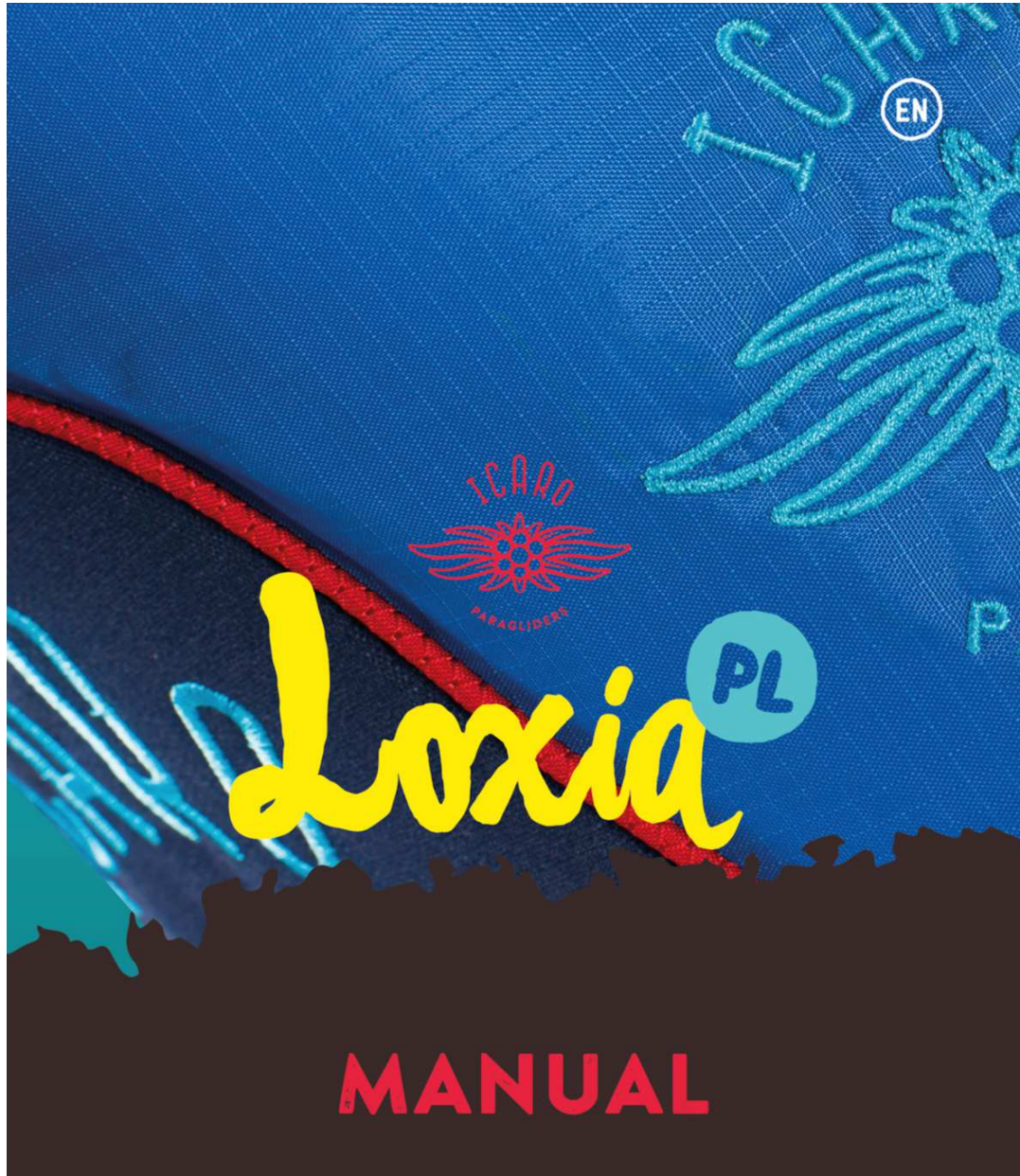


ICARO

Loxia



危険・警告

- 1) 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
- 2) 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
- 3) 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

THANK YOU !

この度はイカロ社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ

イカロ社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。イカロ社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、イカロ社およびイカロ社製品取り扱い店は、イカロ社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。イカロ社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

ハーネス使用の前に

ロキシアは、パイロットを担当するインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、十分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後にのみ、ハーネスの調整を行ってください。

特に最重要の以下の2点について御注意ください。

緊急パラシュートを装填してください

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に緊急パラシュートが機能するようにシステム全体として注意して取り扱ってください。

そして、緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

緊急パラシュートのリパックを行う際に毎回、シミュレーターにぶら下がり開傘動作を練習してください。

ハーネスを調整してください

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことができます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

ICARO PARAGLIDERS

目次

THANK YOU !	2
セーフティー ノート～安全に関するお知らせ	2
ハーネス使用の前に	2
緊急パラシュートを装填してください	2
ハーネスを調整してください	2
目次	3
1ー 一般情報	3
テクニカルデータ	3
コンセプト	4
2ー 緊急パラシュート	6
パラシュートハンドルのデプロイメントバッグへの取付	6
緊急パラシュートのハーネスへの接続	6
ハーネスへの装填	7
緊急パラシュートの開傘動作の注意	8
緊急パラシュートの開傘手順	8
3ー ハーネスの調整	9
肩ベルトの調整	9
背板の調整	9
脚ベルトの調整	9
胸ベルトの調整	9
4ー スピードシステム	9
スピードシステム（アクセレーターシステム）	9
スピードシステムの取付	10
スピードシステムの調整	10
5ー ロキシアでの飛行	10
プレフライトチェック	10
タンデム飛行.....	10
トーイング.....	10
禁止されている飛行.....	11
ランディング	11
自然環境における活動への注意	11
6ー メンテナンスと修理	11
ハーネスの廃棄.....	11

1ー 一般情報

テクニカルデータ

サイズ	1サイズ
パイロット身長	170～195cm
カラビナ吊り高さ	40 cm
座板長	47 cm
ハーネス重量	3.65kg
最大荷重	100kg
プロテクターの種類	エアバッグ
緊急パラシュート装備方法	背部

コンセプト

ロキシアは機能的で安全性が高くコンパクトなタンデム パイロット用ハーネスです。内蔵式緊急パラシュート コンテナとエアバッグ プロテクションを装備し、プロの高い要求にも応えることができます。スプリット レッグ システムによって離陸時の走行も離陸後の快適な着座姿勢への素早い移行も楽になりました。

ロキシアはソロフライトにも使用でき、そのスプリット レッグ セルフ スタビライジング システムによって全ての飛行操作に対応できます。

快適性を追求するためにロキシアでは、オートマチック腹側バックル、脚ベルトの角型通しバックル、腹幅調整、背板調整、肩ベルト調整、そして「ミニバンプ」を装備しています。

リアコンテナの底にあるミニバンプ用ジッパーを開き、ミニバンプを入れて、パラシュートコンテナの裏側へ挿入し、ジッパーを閉じます。



2- 緊急パラシュートの装填

ロキシアは、パイロットを担当するインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、十分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後のみ、ハーネスの調整を行ってください。

ロキシアは緊急パラシュートコンテナの裏側にミニバンプを装備するようになっており、緊急パラシュートを装填する際に必ず、先にミニバンプを装着しておいてください。

パラシュートハンドルのデプロイメントバッグへの取付

ロキシアには、緊急パラシュート引き出し用のハンドルが付属しています。この専用ハンドル以外のハンドルは使用しないでください。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグの中央にあるループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してからしっかり引き絞って、ハンドルを取り付けます。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。



緊急パラシュートコンテナの調整

ロキシアの緊急パラシュートコンテナはサイズ調整可能となっています。まず、使用する緊急パラシュートに合ったサイズにコンテナを調整してください。調整は、横フラップに2セットあるハトメの選択で行います。工場出荷設定では小さめのサイズとなる内側のハトメにバンジーループが装着されているので、サイズを大きくするには外側のハトメにバンジーループを移設してください。



緊急パラシュートのハーネスへの接続



緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、2,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用してください。ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないように固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。

ハーネス側のブライダルはコンテナの左右にそれぞれあり、カバーの中を上方へ伸びています。カバーの上へ出ているブライダルを、それぞれスプレッターバーの取り付け位置へ、6mm径のステンレススチール台形ラピッドリンク＋固定ゴムバンドで接続してください。



ハーネスへの装填

ハーネスのブライダルへの接続が完了したら、ハーネスの緊急パラシュートコンテナのフラップを全て開いておいて緊急パラシュートを装填します。

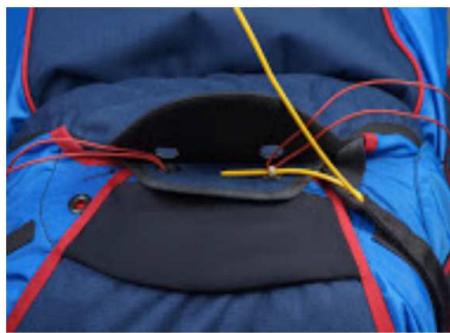
緊急パラシュートの入ったデプロイメントバッグは、ハンドルのついている側が上に、ブライダルやラインは下になるようにし、ハーネスのブライダルは上に伸びるカバーの中へ入れ、パラシュートの裏にあるようにしてください。



作業が楽になるように、サイドフラップに取り付けられているセーフティーピンどめ用バンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムーラインなど）を通します。続いて下側のフラップのハトメへ通していきます。



上側のフラップのハトメへバンジー作業ヒモを通します。



フラップを全て閉じ、右側のバンジーループの中にハンドルの短い方のイエローピンを通し、左側のバンジーループの中に長い方のイエローピンを通します。バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。（ヒモをピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）

毎フライトごとにこのイエローピンが抜けかけたりせずに正しく留まっているか、チェックしてください。

最後に防護カバーをかけ、これを伸縮素材のポケットに挿入します。



ハンドルを固定カバーに取り付けます。
ハンドルが飛び出していないように注意してください。



重要：

緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

3ー ハーネスの調整

ロキシアには多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

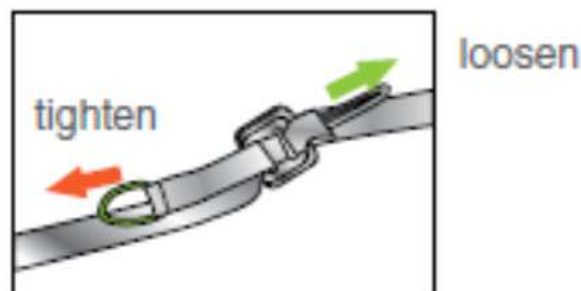
調整作業は、まず緊急パラシュートを装填してから行なってください。そして、最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備・収納品を再現してできるだけ飛行時と同じ条件・ポジションでチェックしてください。

背中の中の角度の調整

リリースベルトを使って、背中の中の角度を調整します。ベルトの引き手を引っ張ると背中が起きた状態になり、黒いタブを引くとベルトが伸びて寝た状態になります。

肩ベルトの調整

肩ベルトの調整用指かけループを引くと、肩ベルトが短く締まってきます。飛行姿勢が寝ていると、肩ベルトはパイロットの上体を支えることになって居住性へ大きく影響してくるのでしっかり調整してください。



胸ベルトの調整

胸ベルトの調整によって左右のカラビナの距離が変わり、これは、機体のコントロール性と安定性に影響します。胸ベルトを締めていくと安定性が増しますが、締め過ぎると、機体のつぶれに続いてツイストに入りやすくなります。また機体からのフィードバックが鈍くなるためにつぶれを起こしてしまう可能性も高まります。

ツイストに入る危険性は、パイロットの飛行姿勢にも大きく影響されます。寝た姿勢の方が、ライザーのツイストを防ぐ反応がずっと難しくなってしまいます。

胸ベルトを締めていくほど、安定スパイラルが維持される傾向もあります。胸ベルトを伸ばすと機体からのフィードバックが増し、かわりに安定性が減少します。

I C A R O社がお勧めするカラビナ間距離は、38～46cmです。

ハーネスの調整は、プロテクションと緊急パラシュートを装填してから行ってください。左右均等の調整となるように注意してください。

5ー ロキシアでの飛行

プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

チェック事項：

- ・全てのバックルが正しく閉まっているか。衣類やライン、氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。

- ・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置に止まっていてセーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
- ・ポケットやジッパーが開いていないか。
- ・ハーネスの調整が変わっていないか。
- ・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。2個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。

テイクオフ

離陸は素直でシンプルに行えます。離陸後の着座姿勢への移行も容易です。

脚を伸ばし、体を起こして走り、加速してください。スプリット レッグ ハーネスでは座板式ハーネスに比べて、体を起こしておくのは難しいと感じるかもしれませんが、できるだけ脚を伸ばしてください。トグルを持った手でシート部をもって着座姿勢を取ろうとするとブレークが引かれるので、行わないように注意してください。

禁止されている飛行

アクロバット飛行や動力飛行での使用は禁じられています。また、ロキシアの諸元表に記載されている運用限界を超えた飛行も禁止されています。

ランディング

ランディングの前にスタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

6－ メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。また、ハーネスは2年に1度、販売者に点検してもらうことと、2年に1度メインカラビナを交換することをお勧めします。

ハーネスの不要な損耗・劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。

パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。

ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスチック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。

ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。

もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。

ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはず、イカロ社またはイカロ社が認定した専門家のみが作業いたします。イカロ社またはイカロ社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。

メンテナンス作業の要望でイカロ社またはイカロ社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。

高性能で軽量のハーネスを実現するために、ロキシアでは高級な素材を使用していますが、標準的なハーネスよりも軽量の素材を使用していますので、ロキシアの使用・収納の際は、常に細心の注意をお願いいたします。正しい使用によってハーネスは長持ちします。

ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄せず、地域の規則に沿った廃棄を行ってください。

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。

この取扱説明書は予告なく変更されるものです。ロキシアの最新の情報は、イカロ社のホームページ

<http://icaro-paragliders.com/en/>

あるいは、

(株)スポーツオーパカイトのホームページ <http://www.opa.co.jp>

でチェックしてください。

Latest update: July 2016

ICARO パラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！

イカロハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただいております。

保証内容

* 通常使用による保証期間 : 3年

* クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間 : 1年
(パーツ代や交換品については実費となります)

保障対象外パーツ(下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。)

* ポッドハーネスのつま先部分(地面との摩耗部分)

* ネオプレーンゴム部分

* ジツパー

* ハーネス本体以外の部品(カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板 等)

修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。



flight since 1977

Sports Opa Kite

(株)スポーツオーパカイト

東京 :

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15

TEL: 03-3291-0802

<http://www.opa.co.jp/>

メンテナンス部: 〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

TEL: 0299-44-3642 FAX: 0299-44-3939

email: itajiki@opa.co.jp